

■ 化 学 ■

独自製法武器に主力品

2月に本格稼働を始めた旭化成のタイAN工場



国内化学業界が独自の製法を武器にした主力化成品の世界展開を加速している。安い原 料が手に入る海外に生産拠点を新設してコスト競争力を高め、新興国での市場拡大を取り込む戦略だ。石油化学設備の新增設ラッシュが続く中国、産油国の強みを生かした中東、エルガス革命に沸く米国との厳しい国際競争で苦境に立つ国内、点でも新製法を武器に差別化を図る取り組みが始まっている。

世界展開を加速

低コストでAN生産

「グローバルに事業を展開する記念すべき一步だ」。2月にタイでアクリル繊維原料のアクリロニトリル(AN)工場を本格稼働させた旭化成の藤原健嗣社長は、こう胸を張る。

藤原社長は2011年度から5ヵ年中期経営計画で高い世界シェアを持つ化学品の世界展開を打ち出した。特に世界2位のシェアを持つANの事業拡大は、石化事業の成長を促す大きな布石となる。

タイAN工場は世界で初めて天然ガス由来のプロパンを原料とした製法「プロパン法」を採用した。合併相手のタイ石油会社(PTT)からプロパンの安定供給を受けて年20万tのANを生産する。石油由来のプロパンを主原料とする従来の製法と比べて圧倒的に安いコストでANを生産し、自動車や電気の部材に使われるSAEBS樹脂の原料として

三菱ケミカルホール

ディングス(HDI)は

米国とサウジアラビア

のメタクリル酸メチル(MMA)モナーの新工場を建設する検討に入った。

米国、サウジとともに

年産能力は25万t。米

国では17年度の稼働を

目指し、今夏にも最終

決定する。

三菱ケミカルHDの強みはエチレンを使つた独自のMMA製法

「新エチレン法」を

つことだ。米国ではシ

エールガス由来の工

レーン生産設備の新設が

国内需要減やコスト高

で再編が進む国内石油化

学コンビナートでは新型

天然ガスの、シェールガ

ス増産で供給不足が懸念

されるタイヤ原料のエチ

レン生産設備は、フタ

ジエンを新製法で生産す

る動きが広がってきた。

北米や中東で新増設が進

む天然ガス由来のエチレ

ン生産設備は、フタ

ジエンを生産できる。

内エチレン設備の再編で

フタジエン生産量の減少

が見込まれるが、新製法

でフタジエン生産量を維持できるようにする狙いだ。

三菱ケミカルHDは、

フタからフタジエン抽出

後に残ったブテンからフ

タジエンを再抽出する新

製法を確立し、量産設備

を建設できる技術開発か

を終えた。三菱ケミカルHD

も新製法を国内外にライ

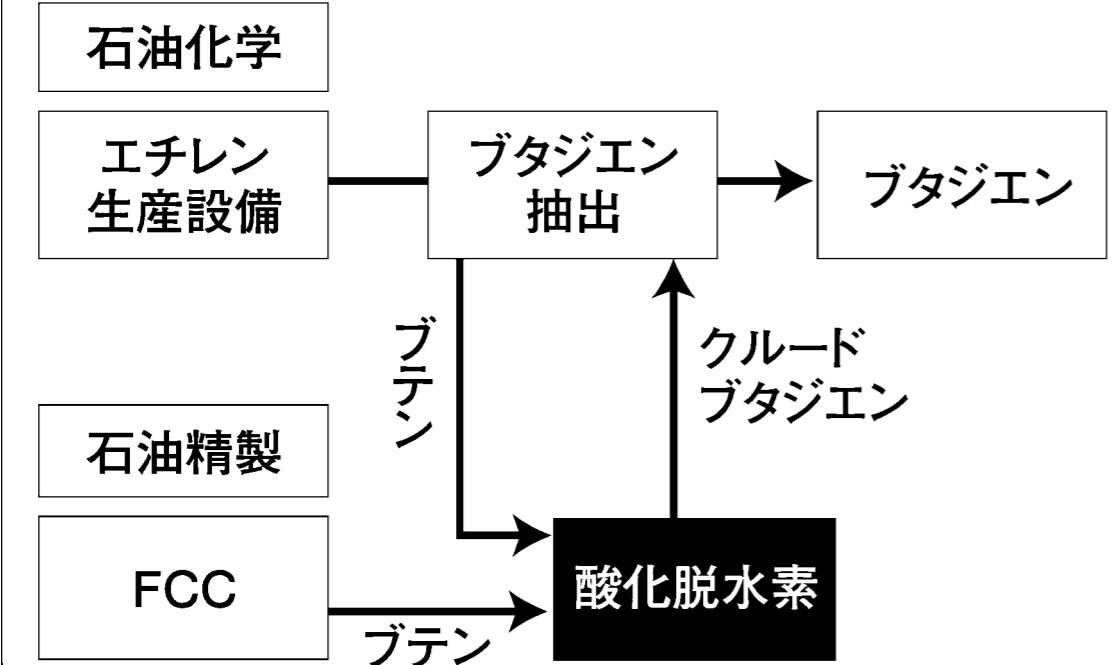
センス提供する考え。

シェールガス革命に対抗

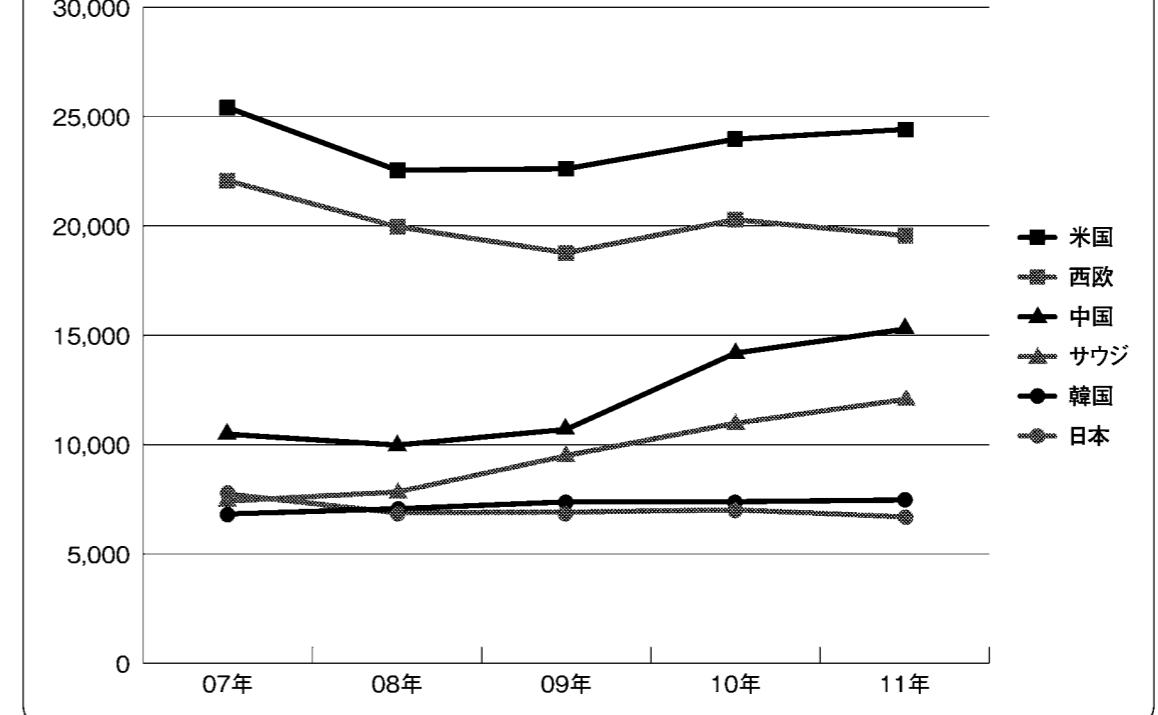
する国内化学業界の武器

となるか注目を集めそ

三菱ケミカルHDのブタジエン新製法



ブタジエンに活路



シェール革命取り込む

新興国への供給拠点

カーボン需要を取り込む。これに国内2拠点を加えた旭化成のAN年产能は、世界で存在感を高めてい

る韓国や中国の家電メー

カは従来比約6割増の1

21万tに増えた。旭化成は安い天然ガスが手に入るサウジアラビアでもプロパン法を用い

た。トヨタ自動車など日

相次ぐ東南アジアに供給

工場も増強が完了し、年

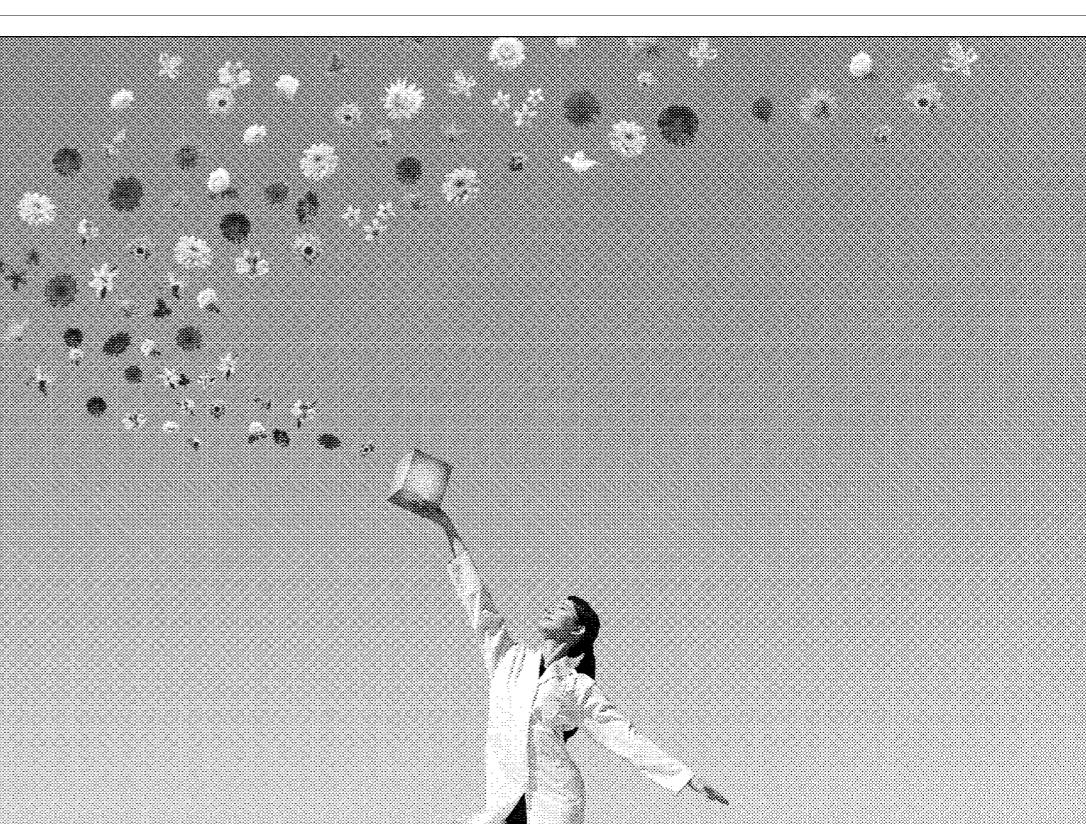
の56万tに引き上げた。

世界で存在感を高めてい

る韓国や中国の家電メー

カは従来比約8割増

の14万tになり、アジアにおけるANシェアが従来比で15%増の4割に高まる。



あしたの世界へ、つぎつぎと。

タイヤ素材、半導体素材、液晶素材だけではなく、精密加工、メタリカル材料、環境エネルギーの分野まで。私たちはマテリアルで、社会に広く貢献していきます。JSRの、あたらしい挑戦にご期待ください。

JNC